を不顧たるに成り上ゝ限江諜之次第ニ而往ゟ得た末
之為ニ相成申器を蒙りけれ其上ハ敷圓之一公を以申
上ゝ不ニハ得を聊お願ハ不申不徒太子佛法を演
ハ命大臣之職を以ニ家ゟ申上ゝ例もあるゝハ
たるを引くらべハ命も私風情たるに成もあるゝ
義ニ為ひも此ニ次第ニ有ゝハ得た分命を不顧此
条申上ニ至ハ委細之儀を以早も以往ハて当下申上ハ
以上

卯五月

窪田[illegible]

○安政三年三月河鎮伊勢守殿以同月清田半三郎
ゟ見ハ以書付写
今般厚キ以報意を以ニ報術横術砲術水泳水深
有しため諸武不以創建ハ 任其筆地篇武不
此命以成功あるゝ以後人始以旅行以家人異將
見分ハ之ハ有志之事ニ於ハ其実ニ御行ハ
後ハ也当四月中ゟ諸方ニ於ハ始ハ筈ニハ案ニ委細
之義を久貝周情ゟ池田甲斐守ニ至て承命ハ且家
後日を陪臣浪人ハも御行之ハ其ハ以義以名
御下ニ於ハ以後を述ニ至て遠ハ
右之御面ニ一ツ御願ハ
三月